



# 世界の農業・農政

## ブラジルの農産物輸出の現状 —ボルソナーロ政権における輸出実績と通商交渉について—

国際領域 主任研究官 林 瑞穂

### 1. はじめに

人口増加及び新興国経済の拡大に伴う需要増加や異常気象による供給の制約などが想定されることから、世界の食料需給動向に関する各国の関心は非常に高まっており、それを背景に農業大国の一つであるブラジルの輸出力が注目されています。このような中で、2018年に米中間の貿易摩擦により世界最大の大豆輸入国である中国が、世界有数の大豆輸出国である米国大豆に対する輸入関税の引上げを実施しました。これを契機に、大豆の国際市場ではブラジルの大豆輸出力が話題となりました。

そのブラジルでは、2019年1月からジャイル・ボルソナーロ大統領のもとで新政権がスタートしました。ボルソナーロ政権で外務大臣を務めるエルネスト・アラウージョ氏が就任前の2018年12月に農産物の輸出強化について言及していることから明らかに、同政権は農産物の輸出拡大に力点を置いています。ここでは、農産物を切り口に、ボルソナーロ政権における輸出と通商交渉の現状についてまとめたいと思います。

### 2. ブラジルの農産物輸出実績

ブラジルは、1980年代後半から90年代にかけて、為替や税制などの政策を通じて輸出を促進する制度及び環境を整えてきました。そして、急速な経済成長を遂げている中国を中心とするアジア新興国の需要を取り込むことで輸出を拡大し、2018年には1,000億ドル以上の農産物を輸出しました。ボルソナーロ政権が発足した2019年1月から10月までの間に約802億ドルの農産物を輸出し、その30%以上が中国向けとなっています（第1表）。

ブラジルの輸出農産物の中で、輸出総額の35.4%を占める大豆・大豆製品が最大の品目であり（第2表）、その約6割が中国向けとなっております。次に食肉が16.3%を占めており、中国・香港を中心としたアジア地域に46.3%、サウジアラビア・アラブ首長国連邦・エジプトに代表される中東地域に20.7%が輸出されています。伝統的なブラジルの農産物である砂糖・エタノールやコーヒーは、それぞれ6.3%、5.2%の割合に留まっています。なお、日本に対する農産物輸出額は26.1億ドルで、トウモロコシ、鶏肉及びコーヒーがその約7割を占めています。

第1表 ブラジル農産物の主な輸出相手国  
(2019年1月～10月)

順位		輸出額 (百万米ドル)	比率
1	中国	25,520	31.8%
2	EU	14,122	17.6%
3	米国	5,884	7.3%
4	日本	2,611	3.3%
5	イラン	2,003	2.5%
6	香港	1,730	2.2%
7	韓国	1,695	2.1%
8	ベトナム	1,468	1.8%
9	サウジアラビア	1,452	1.8%
10	エジプト	1,305	1.6%
	その他	22,375	27.9%
	合計	80,166	100.0%

資料：ブラジル農務省AGROSTAT.

第2表 ブラジルの主な輸出農産物  
(2019年1月～10月)

順位	品目	比率
1	大豆・大豆製品	35.4%
2	食肉	16.3%
3	パルプ	13.7%
4	穀物	8.2%
5	砂糖・エタノール	6.3%
6	コーヒー	5.2%
	その他	14.9%

資料：ブラジル農務省AGROSTAT.

### 3. ボルソナーロ政権における通商交渉の取組

ボルソナーロ政権における通商交渉について、二国間及び南米南部共同市場（メルコスール）の二つの観点で説明します。

#### (1) 二国間交渉について

ボルソナーロ政権のテレザ・クリスチーナ農務大臣は、ブラジル農産物の輸出機会を拡大するために、積極的に外国政府要人と会談を行っています。ブラジル農務省が公開した情報によると、クリスチーナ農務大臣は、2019年10月末までの間にブラジル国内で20か国以上の政府要人と会合しており、

また国外については国際会議への出席も含めると16か国を訪問しています。ブラジル農産物の最大輸出相手国である中国へ2回訪れていて、輸出機会拡大のために力を注いでいます。そして、ブラジルは、2019年7月に粉ミルクとチーズの輸出について、11月に果実類として初めてとなるメロンの輸出について中国と合意に至り、輸出農産物の多様化に成功しました。そのほか、中国向けに食肉を輸出することが認められているブラジルの施設が、9月に25か所、11月に13か所、追加で承認され、現在は102か所が中国市場へのアクセスが可能となっています。

中東地域は食肉の主要輸出先の一つですが、エルサレムに大使館を移設するというボルソナーロ大統領の発言を受けて、中東諸国はブラジルに対して不信感を抱きました。しかし、クリスティーナ大臣は、ブラジルにとって中東は重要な地域であると直ちに発言をして、関係維持に努めました。9月には、エジプト、サウジアラビア、クウェート及びアラブ首長国連邦を歴訪し、乳製品の新規市場としてエジプトを開拓したほか、サウジアラビアに対する牛肉輸出の強化に関する交渉を進展させました。

そのほか、マレーシア及びインドネシアに対する牛肉やインドに対する鶏肉の輸出、そして韓国に対する牛肉の輸出拡大について協議が進展しています。

日本との間では、2019年8月26日に第4回日伯農業・食料対話がサンパウロ市で開催され、日本の吉川農林水産大臣、クリスティーナ農務大臣をはじめとして、両国の関係省庁や企業等から100名以上が参加しました。同対話では、税制改革などのブラジルにおける投資環境の改善や穀物輸送インフラなどの農業・食料分野に関する意見交換が行われました。また、農相会談では、吉川大臣からブラジルに対する投資・ビジネス環境の改善にかかる要請を行ったほか、二国間の協力推進などについて幅広く意見交換が行われました。

## (2) メルコスールを通じた交渉について

まず、メルコスールの概要について説明します。現在のメルコスールは、創設メンバーであるアルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイのほかに、加盟に対する各国議会の批准を待っているボリビアや無期限資格停止処分中であるベネズエラを含めると6か国で構成されており、また準加盟国としてチリ、コロンビア、エクアドル、ギアナ、ペルー、スリナムの6か国があります。メルコスールは、1991年のアスンシオン条約で創設された後、95年に域内の関税撤廃を目的とした関税同盟を結び、自動車部門の一部を除き原則として域内関税を撤廃、全品目の約85%に対して0～20%の対外共通関税の設

定を行いました。これに伴って域内の貿易は拡大しましたが、1999年のブラジル通貨危機や2001年のアルゼンチン債務危機を契機に、域内貿易に対する依存度は低下しました。また、2000年代のブラジルやアルゼンチンにおける左派政権時代は、メルコスールの国際政治上の役割は高まりましたが、経済的役割の深化は限られていました。しかし、経済活動を重視するアルゼンチンのマクリ大統領が2015年に、ブラジルのテメル大統領が2016年に誕生したことを契機に、メルコスールの経済的活動が活性化して現在に至っています。なお、メルコスール加盟国は単独で自由貿易協定を結ぶことができないこともあり、ボルソナーロ大統領は制度改革の必要性を訴えています。

次に、ボルソナーロ政権のメルコスールを通じた通商交渉について述べます。6月28日に、メルコスールとEUの間で自由貿易協定に対する大枠合意が成立しました。メルコスールとEUは、1995年に自由貿易を検討すべく枠組み協定を結び、2000年から本格的に交渉がスタートしました。思うように進捗せず2012年に協議が停止してしまいましたが、2016年から交渉が再開してこの度の合意となりました。ブラジル農務省は、この自由貿易協定により、オレンジジュース、果実、インスタントコーヒー、魚などの輸入関税が撤廃されるほか、食肉、砂糖・エタノールなどの輸出環境も改善されると公表しております。また、これから15年の間に、ブラジルのGDP引上げ効果を875億ドル、投資については1,130億ドルの増加と見込んでいます。

メルコスールは、スイス、ノルウェー、アイスランド及びリヒテンシュタインで構成される欧州自由貿易連合(EFTA)とも自由貿易協定で合意に至ったほか、カナダ、シンガポール、韓国などとも自由貿易に向けて協議を進めております。

## 4. おわりに

これまで整理してきましたように、ボルソナーロ政権は、農産物の輸出機会拡大を積極的に推進してきました。また、中国と自由貿易地域の設立の可能性について意見交換をしたという11月13日のパウロ・ゲデス経済大臣による発言からも、ブラジルは更なる輸出拡大の機会を求めていることが見て取れます。

今後、ブラジルが更なる自由貿易を追求する場合、メルコスールという枠組みをどのように取り扱うのか、また2019年10月にアルゼンチンの大統領選で勝利した左派勢力のフェルナンデス政権による政策動向などがポイントとなります。これらの点を踏まえて、引き続き、ブラジルの農産物輸出拡大に対する取組について注視していきたいと思えます。